

「業務改革」 既に随所に影響が！

昨年10月31日に会社がプレス発表して2ヶ月半が経過しました。会社が「Our Future」の冊子を社員に配布し、「当社が目指す鉄道の将来像」として「より快適」「より安全」を掲げ、「業務改革」と「収益の拡大」によりコスト削減とスリムな業務体制を構築する・・・としています。

そして、社員（職場においては所員）の全体的な意見を明らかにすることなしに、「個人面談」として、担当助役と一個人との関係のみで、それぞれ担当助役も面談の内容的に具体的な説明やプランなど皆無に近い面談だったとのもっばらの噂でした。

そして今年になって出向社員に「JR 東海グループビジョン2032」という冊子が突然配布されました。

この冊子の表紙には、険しい雪山に登っている写真を用い、この雪山に登れ！とでも言っているがごとく、金子社長の言葉として「・・・たとえ経験がなく困難に思えることでも、合理的に考えて実行すべきと判断すれば、これまでのやり方や考え方を非連続的に変革させていく・・・10年先のありたい姿を見据え、今なすべきことを熟考し、一人ひとりが熱意をもって挑戦と実践を積み重ねれば、必ず大きな成果が得られると確信しています・・・」と、本体 JR の「Our Future」を超越して社員を叱咤、叱咤・・・鼓舞？する内容の冊子です。

そのような中、着々と会社の構想は進展！

具体的説明やプランもない本体 JR において、既に影響が出始めています。

今、ダイヤ改正から巡回行路がなくなり、4所（名古屋運輸所は元々巡回行路なし）で60人の要員削減。また、出勤予備（確保予備）が各所5人が地区で6人へと削減されます。

福利厚生の変質で、益々不便に！

そして、大阪の日の出食堂も2月20日をもって営業終了になります。

これまで、劣化の一途をたどってきた社員食堂に関して、会社に対して苦言を呈してきましたが、会社は「社員のニーズに寄り添った社員食堂の運営をしている」（業務委員会）

とし、全く私たちが求める実態と乖離した態度を一貫して貫いてきていました。それがここにきてついに営業終了になります。

今後より一層、合理化・効率化・の影響は随所に出てくるでしょう！

今、しっかりと声を上げていかなければ、手遅れになりますよ！

さあ皆さん！一緒に立ち上がりましょう！！